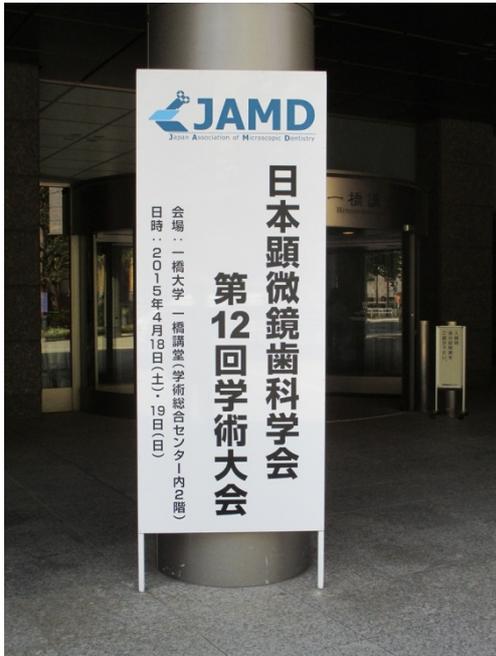


# 日本顕微鏡歯科学会第 12 回学術大会事後報告

日本顕微鏡歯科学会第 12 回学術大会が、平成 27 年 4 月 18 日（土）、19 日（日）の 2 日間にわたり、“拡げてみよう臨床・教育・研究”を大会テーマに掲げ、東京都千代田区の一橋講堂全館を貸し切り開催致しました。



学術大会で真っ先に準備された看板

公共施設のため当日 8 時 30 分から準備を始めたわけですが、午前 9 時 15 分開場予定が 9 時前には多くの方々がお待ちになっており 1 階フロアの混乱を避けようと、準備が整わないうちに受付を開始したため一時受付スタッフが混乱し大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。



受付準備を開始



受付開始を待つ参加者

今大会は辻本会長を始め、事務局の先生方、役員各位のご努力による普及活動のおかげで関係者、企業の方々を含めると参加者は過去最高の 600 余名にのばりました。また、細部での不備は多々あったとは存じますが、大きな問題も

起こらず 2 日間の学術大会を皆様方のご協力を得て盛会裡に執り行うことができました。大変感謝申し上げます。



一段落してほっとしているスタッフ



準備中の企業展示ブース

10 時の開会式後本大会テーマの“拡げてみよう臨床・教育・研究”で山本昭夫大会長の基調講演で幕を開けました。



山本昭夫大会長による基調講演

多くの応募の中から大会運営上の都合により一般演題は 9 題に絞らせていた

できました。採択されなかった先生方本当に申し訳ございませんでした。次回に向けてさらにブラッシュアップして頂けたらと思います。



開始前に今学術大会の趣旨説明を述べられている座長の五十嵐勝先生  
一般演題開始



発表されている先生方



発表されている先生方



座長の鈴木真名先生

発表されている先生方、座長の吉田格先生



発表されている先生方



座長の吉田格先生



お弁当なしの参加者も数多く、大盛況のランチョンセミナー



開始前の評議員会場



午後の開始を待つ参加者

午後 2 時より前回大会に大会長を受賞された高田光彦先生による第 11 回大会長賞・受賞記念講演が行われた。



表彰を受ける高田光彦先生（左）と座長を務められた北村和夫先生（右）

引き続き米国ロサンゼルスで開業されている George Bogen 先生による「Advances in Vital Pulp Therapy」と題した特別講演が、東京医科歯科大学教授の興地隆史先生と、CT&米国式根管治療センターの寺内吉継先生

お二方に座長をお願いして行われた。



Dr. George Bogen



座長の興地先生（右）と寺内吉継先生



### 懇親会（如水会館 スターホール）

関係者を含め 200 名以上と予定を上回る方々に参加して頂き、有り難うございました。料理の量が足りず後から追加することになり、追加に気がつかない人には物足りないものになってしまい、申し訳なく思っております。

また辻本先生ご子息らによるアトラクションでは会場也大いに盛り上がり盛会の内に終了しました。



開会の挨拶をされる山本昭夫大会長 司会の水川悟先生、神田善姫先生



大盛況の懇親会場



この後あっという間に無くなってしまった料理



辻本学会長のご子息を中心としたグループ『Elephant Crew』のアトラクション



懇親会終了後、如水会館オリオンルームで初の試みのデンタルアーツアカデミーとの共催によるナイトセッションが行われた。演者は特別講演を行って頂いた Dr. George Bogen で「 **Multifaceted Applications of Calcium Silicate-based Cements** 」という演題でした。参加は事前申し込みの先着順で半額を学会から援助するというもので定員枠はあっという間に埋まってしまい、当日デンタルアーツアカデミーに申し込まれた方もおられたようでした。ナイトセッションは22時頃まで行われました。参加された皆様お疲れ様でした。



## 2 日目

朝 6 時 30 分から吉田格先生の御発案で有志による皇居ランが行われました。私は散歩のつもりで参加しましたが、ほとんどの方は皇居を 1 周され、とても喜ばれておりました。



9 時 30 分より一般演題がスタートしました。



発表されている先生方



座長の山本昭夫先生



発表されている先生方、



座長の川上智史先生（次期大会長）

引き続き 2 会場に分かれ衛生士シンポジウムとテーブルクリニックが行われました。

一橋講堂では衛生士シンポジウムが「顕微鏡歯科衛生士が伝えたいこと」と

いうテーマで、講師として日大松戸歯学部附属病院の安田（吉岡）美奈さん、武井歯科クリニックの上田こころさん、吉田歯科診療所の和田莉那さんのご三方にまた座長を中川寛一先生、小塚昌宏先生お願いし開催されました。

安田（吉岡）美奈さんは「 拡大した世界を知る 」

上田こころさんは「 拡大することの基礎を振り返る 」

和田莉那さんは「 患者さんを笑顔でお迎えするために 」 という演題でご講演なさり、活発な質疑応答も行われました。



3人のシンポジスト

座長の中川寛一先生（右）と小塚昌宏先生（左）

5演題でしたが、予想を超える多くの先生方が参加され、会場内での移動が大変そうでした。



また引き続いて行われたランチョンセミナーも2会場で開催されましたが、早々に予定人数が一杯になる盛況ぶりでした。

午後のシンポジウムでは「マイクロエンドサージェリー - 術式から予後観察までのエビデンスを考える - 」というテーマで群馬大学口腔外科の小川将先生とロサンゼルスでご開業の清水籐太先生に、また座長には辻本恭久学会長と木ノ本喜史先生にお願いしました。

小川 将先生は「広範囲（3 歯以上）に進展した歯根嚢胞に対する顕微鏡下歯根尖切除術の適応」、清水籐太先生は「” To bone, or Not to bone ” エンド外科における GBR が果たしうる役割とその限界，そして今後の展望について」という演題でご講演頂きました。



小川 将先生



清水籐太先生



辻本恭久先生（左）と木ノ本喜史先生（右）



引き続いて行われた総会・表彰式・閉会式には多くの方々に最後まで出席して

頂きました。

第12回の大会長賞は長崎大学歯学部の上本真規先生が選ばれました。

おめでとうございます。



大会長を受賞された上本真規先生と山本昭夫大会長

■